福島
浜通り

福島総局
960-8103
福島市舟場町1-28
☎ 024-523-3571
fax 024-521-0305
いわき支局
970-8026
いわき市平田町120
ラトブ7階
☎ 0246-23-0241
fax 0246-23-0149
郡山支局
963-8876
郡山市麓山1-1-7
☎ 024-922-0563
fax 024-922-0584
☎0242-22-8444
☎0244-22-2463

きょうの天気

降水確率 12~18時

福島	90
郡山	90
白河	90
会津若松	70
小名浜	90

北東 東 会津若松
北北東 東 小名浜
北北東 湿度 80% 波 7.0m

	最高	最低
福島	5度	－2度
郡山	5度	－1度
白河	6度	－1度
会津若松	5度	－3度
小名浜	10度	3度

あす
北西 西北西 会津若松
西北西 北北西 小名浜
北北西 湿度 60% 波 5.0m

2月16日
（旧1月17日）
日出 6.27
日入 17.18
月出 18.37
月入 6.39
月齢16.2

「震災忘れないで」

ワスレナグサに 磐農生の願い

校内で栽培、来月東京へ

震災で被災した県立磐城農業高校（いわき市）の生徒たちが育てたワスレナグサが、首都圏の人たちに贈られることになった。14日、学校を訪れた贈呈プロジェクトの主催者、社会貢献団体の一般社団法人・ほのぼの運動協議会（東京）のスタッフに、「震災を忘れないで」との願いを込めて手渡した。

このワスレナグサは3月8、9の両日に東京の銀座で、16日に東京の代々木公園で道行く人たちにプレゼントされる。9日は磐農の生徒たちも銀座で配る。県立相馬農業高校の生徒たちが育てたワスレナグサも合わせ、宮城県南三陸町で磨いたホタテ貝（感謝のメッセージ入り）と一緒に配る計画だ。全部で1500人分を用意する。

ワスレナグサを見つめる作間由美子副理事長（中央）と磐農の生徒たち＝いわき市植田町

ワスレナグサの花言葉は「私を忘れないで」「真実の愛」。春になると、淡い青色をした小さな花を一生懸命に咲かせる。かれんな花を首都圏の人たちに受け取ってもらい、被災地に思いをはせてもらう。福島県の花卉園芸農家、南三陸町の水産加工業を応援してもらおうとの思いを込めた。

磐農は震災と巨大余震で校舎を含め多くの施設が損壊、使えなくなる被害を受けた。協議会から「ワスレナグサを育ててほしい」との打診を受けた磐農の生徒たちは、「いわきを応援してくれる人たちがいる」と快諾した。地震に耐えて残った学校のハウスを使い、昨年12月から育て始めた。

2年生の小野梓さん(17)は「温度管理に気を使いました」と振り返る。先週末の大雪でハウスがつぶれたが、これまでに900株がしっかりと育った。

協議会の作間由美子副理事長は、生育の苦労話を聞き、「立派に育ててもらい感謝しています。協力いただきながら、プロジェクトを来年以降もしっかりと続けていきたい」と話した。

（江川慎太郎）

会津発「ふわもこ羊」 産学コラボで商品化

来年の干支 形も香りも癒やし系

西会津町の企業組合と会津大学短期大学部がコラボレーションし、来年の干支をモチーフにした張り子「ふわもこ羊」をつくった。「現代的で癒やしを与える張り子」をコンセプトに、学生が試行錯誤しながらデザインした。14日、会津若松市一箕町八幡の短大で発表した。

野沢民芸品製作企業組合が昨年初め、短大部デザイン情報コースの高橋延昌准教授に「新しい張り子をつくりたい」と相談。これを受けて高橋准教授ゼミの2年生3人が卒業制作課題を兼ねてデザインを提案することにした。張り子の中でも最も売り上げが多いのが干支張り子のため、羊を選んだ。

従来にはない感触の6色の「ふわもこ羊」と、制作した2年生＝会津若松市一箕町八幡

色は6色。パープルの羊毛の張り子には底からラベンダーのアロマ瓶を入れた。イエローはレモングラスなどと各色ごとに異なる香りを楽しめる。

「被災や風評被害で苦しんでいる県の新しい工芸品となることを期待したい」と高橋さん。学生の一人は「1番いい接着剤の量を決めるまでが難しかった」と話した。

組合の早川美奈子専務理事は「ふわふわした張り子は従来にはない。5～6月の見本市以降の販売になる。ターゲットの若い女性でも買えるよう千円台に抑えたい」という。

（菊地敏雄）

万葉太鼓を練習する真野小の児童たち＝南相馬市鹿島区の鹿島小体育館

「万葉太鼓」は万葉集で詠
まれたこの地域にのこる太鼓
芸能。真野小が25年前から授

島区の生涯学習センター「さ
くらホール」で22日午前9時
から。

（本田雅和）

を約1・6倍の1279
所に増やすという。従来と
は異なり、既存の工業団地